令和６年度　島根県学力調査結果及び分析

松江市立義務教育学校玉湯学園後期課程

【１】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

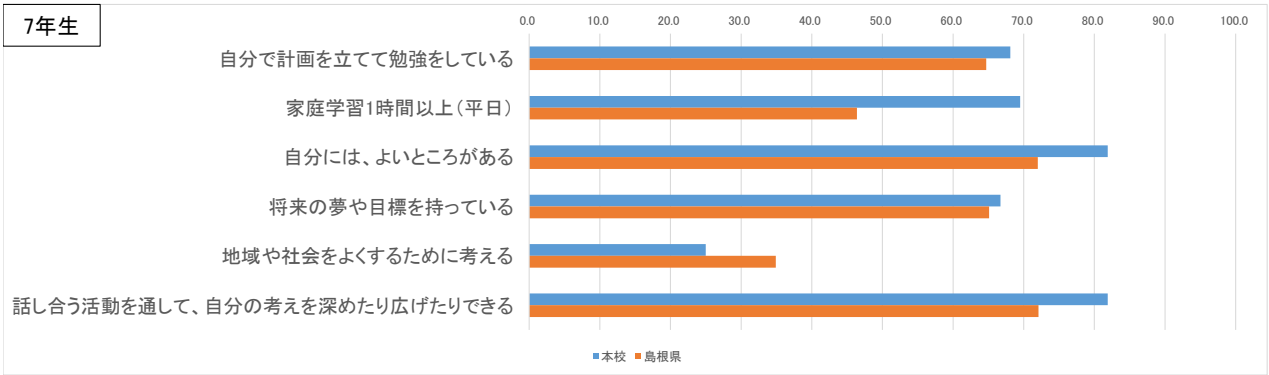
	7年生	8年生
国語	○どの領域においても、概ね目標値と同等あるいは上回る正答率であった。特に、「話す聞く」「書く」領域については目標値を大きく上回る結果であった。 ●「文章の内容を読み取る」ことについては、他の領域と比べると幾分弱い傾向にある。特に、文学的な文章において、その描写から登場人物の相互関係を読み取る問題の正答率が低かった。登場人物の関係性についてグループで話し合わせたり、相関図を作って視覚的に捉えたりすることで、読み取る力を付けていきたい。	○どの領域においても、概ね目標値と同等あるいは上回る正答率であった。特に、「書く」領域については目標値を大きく上回る結果であった。 ●8年生で学習した漢字の読みの正答率が低かった。7年生で学習した漢字は読めているので、今後、日々の漢字テスト等を通して漢字の読み書きの力を高めていきたい。
数学	○図形や関数の分野では、目標値を超える正答率である。 ●全国と比べると関数の分野以外はすべてで平均以下である。目標値と比べると、活用問題や文字式、方程式の問題で低い傾向がある。特に、方程式の問題では著しく低くなっているので、基礎となる文字式の計算練習や方程式を解く練習を増やしていく必要がある。	○計算や図形の分野では、目標値を超える正答率である。 ○無回答が少ない傾向にある。 ●活用問題に取り組むことに困難を感じている生徒がいる。生活と関連付けた問題に取り組む機会を増やし、興味を持てるようにしていく必要がある。
英語	○聞くことや読むことの領域において、要点を捉えることは県平均とほぼ同等である。 ●全国と比べると全体的に目標値より低い。特に語形や語法に知識や、分の語順に沿って作文する力が弱い。文法事項や語彙について、反復して練習問題する機会を増やしていく必要がある。	○聞くことや読むことの領域における要点を捉えることは、目標値を超える正答率である。 ●読むこと、特に概要や必要な情報を読み取ることは、目標値を下回っている。また、書くことにおける知識・理解が不足している傾向にある。そのため、本文を読んで必要な情報や概要を読み取ったり、書くことの基盤となる知識・技能を教科するための練習を増やす必要がある。

【２】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

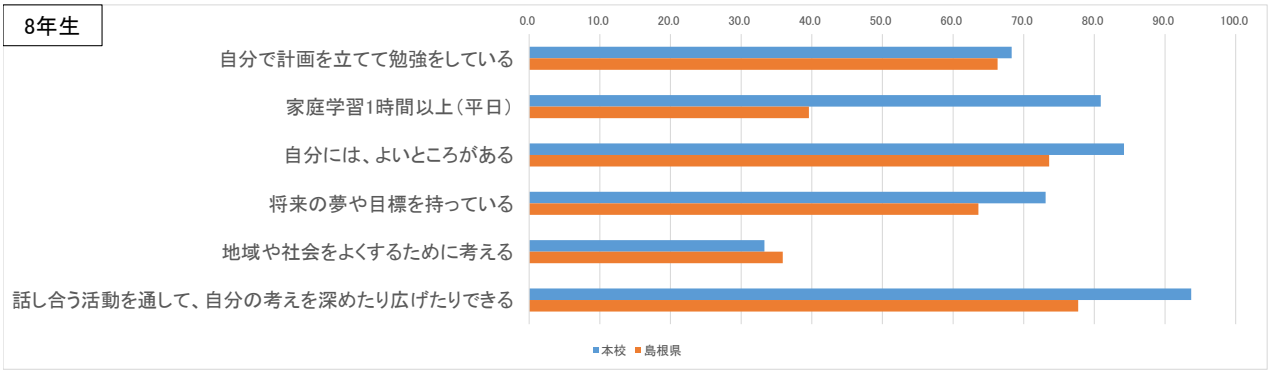
	7年生	8年生
意識	○1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が県よりも高い。 ○自分のことを肯定的に捉えている生徒の割合が高い。 ○他者と意見交流することが自分の考えを深めたり、広げたりできると考えている生徒の割合が高い。 ●地域に対する関心が県全体よりも低い。	○1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が高い。 ○自分のことを肯定的にとらえ、将来のことについて考え始めている。 ○他者と意見交流することが自分の力を伸ばすと考えている生徒の割合が高い。 ●地域に対する関心が県全体よりも低い。

【３】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）

7年生



8年生



【R6学力調査受検者数】　7年生　72　名　　8年生　63　名　　（欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示）